伝心伝承

当コーナーでは会長、県会長経験者の方々に「中央海（い）」という大海原での羅針盤たる助言・苦言をいただきます。記念すべき1回目は第20期会長藤居忠弘ＯＢです。

―藤居ＯＢは会長時、「竭誠盡敬」（相手を敬い、真心を充分に尽くす）をスローガンに掲げ、今後の西部青年中央会のあり方を会員全員に問われたそうですが。

それまで創業者・2代目など、会員のほとんどがオーナー的な人だったのだが、私が会長になる前ぐらいから幹部社員や将来後継者になるであろう方、いわゆるサラリーマン会員が増え、少しそれまでとは流れが変わってきた。

当時、時代背景はバブル景気の前段階で、オーナー会員は時間と金銭面に自由度があり、対してサラリーマン会員は会社に気を遣いながら時間をつくらねばならず、中央会活動に対しての意識に違いが感じられるようになった。そこで、昔のことを思い出しながら、この先どういうふうに中央会活動に取り組んだらいいのかと会員と共に考えた。

―仕事と中央会活動の両立は出来たのですか？

当時は景気も良く、先代より『1年ぐらいの間、行ってこいや！』と言ってもらい、おかげで悔いを残さず中央会活動をやり遂げることが出来た。当然、仕事もきちんとしたよ（笑）。

中央会活動に悔いなく取り組むためには家族の理解も必要だ。私はレクリエーション、トライアスロンのボランティアには家族を連れて行って共に楽しんで、中央会への理解を深めてもらった。

それにしても、景気が上り調子のいい時期に会長をしたなとおもう。今ならようしません（笑）。

―この質問は定例になるかもしれませんが、月に飲食費はどれくらい使われましたか？

入会した当時は2,000～5,000円であとは先輩持ち。だから、結構安かった（笑）。この飲みニケーションによって長い付き合いの出来るかけがえの無い人脈を得ることが出来た。飲み代は中央会に入っていなくても使っているしね。

―平成15年度のスローガンは「伝心伝承」ですが、諸先輩方よりなにか受け継がれてきたものがあればお教えください。

伝統や受け継がれてきたものではないが、やはり「先輩方との人間関係」。1年目の新入会員時は下働きみたいなこともあるかもしれないけど、2年目以降は一緒だからそれぞれの会社の代表としてモラルをもって接していかなければならないと私は感じる。そこらを勘違いされている先輩方もおられたが、やはりそういうのは間違いだなとおもっている。これは大人の会ですから。

服装もですが、「大人の会としてモラルをもって先輩方と接していい人間関係をつくる」、これが受け継がれてきたものではないかな。

―最後に現役会員へメッセージをお願いします。

体もですが家庭も壊さないように。そして、会社も壊さないように。出来る範囲内で明るく楽しくしっかりと活動してください。

（広報：福庭貴志）

言わしてごしない　其の壱

練習はウソをつかない

3年前から米子に2チームあるボーイズリーグ（硬式野球）の1つ「ブルースターズ」というチームのコーチをしています。週末だけの練習で、日野川河川敷のグランドを使い、30名ほどの子供たちと共に気持ちのよい汗を流しています。

指導者を始めた頃は技術面よりも“野球を愛する心”“野球に対する熱い想い”“用具の大切さ”などメンタル面を徹底的に教え込みました。硬式野球と言っても心も身体もまだまだ未熟な中学生ですので、厳しさの中、少しでも子供たちに“野球の楽しさ”“上達していく悦び”を伝えることができればと考えています。

子供たちの最終目標はあくまでも甲子園で活躍することです。そのために、たとえ少しの時間でも弱い部分や足りない部分を繰り返し練習して補うことにより、必ず夢は叶うと日々言い続けています。

去る6月28日（土）、29日（日）に「全国選手権大会鳥取県予選」が行われ、創部18年目にして見事初優勝の栄冠を手にすることが出来ました。

飛び抜けた選手がいる訳ではありません。ひとりひとりが1つのボールに心を込めて、投げ・打ち・守った結果勝ち取った優勝でした。たくさんの思い出が頭の中によみがえり、子供たちと共にグラウンドの上で大粒の涙を流しました。

“練習はウソをつかない”この言葉を信じて一生懸命がんばり、勇気と感動を与えてくれた子供たちに今は只々感謝ですっ！

（広報：徳中志伸）

吾輩はサスペンダー男である

我が家では1羽の手乗りセキセイインコを飼っている。白ハルクイン種の雌で、名前はチロという。幼鳥の頃は他のインコの後について飛んでいたのだが、いつからか飛ばなくなってしまった。飛べなくなったという表現のほうが妥当かもしれない。長年鳥の仲間がいないせいか、家族に非常になついている。両親に溺愛されて育ち（母は「お孫さん」と呼ぶ）、丸8年が経過した。人間に換算すると何歳くらいになるのだろうか…。

私が以前東京に住んでいた頃、当時の毎日新聞に「13年間生きたギネス級のセキセイインコ」という内容の記事が載っていたことを記憶しているが、家で昔飼っていたインコは16年生きた。チロにとってはようやく5合目に差し掛かったところだ。別に記録に挑戦というわけではないが、是非とも長生きして欲しいと願う今日この頃である。（尼）

8月例会案内

と　き　平成15年8月18日（月）　18：30開始
ところ　米子食品会館
講　師　キリンビール山陰支社　支社長　長野良昭氏
　　部　長　北村公重氏
演　題　ビールの学校
※今例会の趣旨を充分理解いただき、飲酒運転にはくれぐれもご注意ください。

8月役員会報告

8月定例役員会が平成15年8月1日（金）、米子食品会館において開催されました。当日の主な議題は以下の通りです。
(1) 8、9月例会開催の件
(2) ジュニアトライアスロンボランティアの件
(3) その他
※なお、詳細については委員長までご照会下さい。

※この紙は再生紙を使用しています。　※環境に配慮した「大豆油インキ」を使用しています。

文書 | 所長 | 主幹 | 合 | 議 | 区分
15. 8. 5

伝心伝承
「自立」－3本の柱－
会の自立
人としての自立
地方の自立
第29号　2003. 8.
雄飛
発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会　会　長　浜田一哉　編集責任者　野嶋　功　印刷所　東京印刷㈱

ごあいさつ

鳥取県西部中小企業青年中央会
会長　浜田一哉

第29期会長を務めさせていただくことになりました浜田でございます。1年間自分なりに精一杯がんばろうとおもいます。よろしくお願いします。

さて、青年中央会は言うまでもなく異業種の集まりであります。所属企業の規模や形態はもちろんのこと、手法やポリシーもそれぞれ異なる経済団体であります。ＩＴ化がどんどん推し進められていかなければ取り残されていく業種もあれば、いまだにアナログから抜けきれない業種もあります。しかしながら、同じ企業人として共通して言えることは「どんなに進歩的・革新的な技術が発展しようとも昔ながらの普遍的なものは必ず存在する」ということです。

そこで、今年度のスローガンを「伝心伝承」としました。「会員ひとりひとりが社会人としての自覚をしっかりと認識し、西部青年中央会会員として会の伝統・精神を継承しつつ、新しい中央会活動につなげていこう」という想いで掲げました。

また、テーマを「自立」とし、基軸となる３本の柱を挙げました。「会の自立（中央会の会としての自立、そしてアイデンティティーの確立）」、「人としての自立（企業人、社会人そして交際人としての自立）」、「地方の自立（地域の自立と地域間競争の中でどう生き抜いていくか）」がそれです。昨今、“日本人の心を忘れてしまった日本人”というフレーズを幾度となく耳にします。こんな時代に何ができるのか？こんな時代だからこそ何をしたらいいのか？自問自答してみたときに、自分の足元を見つめ、そして足元を固め、自立をしていくことが最も重要ではないのかとおもった次第です。

我々は会社からあるいは個人から会費を納めていただき活動をしています。言い換えますと、自らに投資をしていただいているのです。中央会活動を通して自己の研鑽をし、英知を養い、自ら一回りも二回りも大きくなることが所属企業に対しての最低限の使命であることを忘れてはなりません。私自身もそのことを改めて肝に銘じ、精進したいとおもいます。

来年度は当会にとって30周年という大きな節目の年を迎えます。会員の皆様ならびにＯＢの皆様のご指導・ご協力を得まして微力ではありますが次代につなげていきたいとおもいます。どうぞよろしくお願いします。

鳥取県中小企業青年中央会
会長　市位清明

この度、鳥取県中小企業青年中央会の会長を務めさせていただくことになりました市位清明です。県会長という大役が務まるのか大変不安ではありますが、会員の皆様の協力をもって1年間がんばってまいりたいとおもっております。どうかよろしくお願いいたします。

さて、今年度の県青年中央会の年間テーマは「進化（変化とスピード）」とさせていただきます。

今さら言うまでもなく、我々中小企業を取り巻く経済環境はもの凄いスピードで変化をしております。右肩上がりを前提として経営計画をたて、数字目標を達成してきた時代は終わり、常に情勢の変化に素早く対応できる企業（進化する企業）こそが生き残ることができる時代になったのではないかとおもいます。

青年中央会も29年という歴史を積み重ねてきました。過去、先輩ＯＢの皆様が幾多の事業・活動を通じて築いてこられた青年中央会の歴史と伝統は大切にしていかなくてはなりません。しかし、会員の意識も時代とともに変化し、また、社会や経済の状況が大きく変化していっている今の時代、我々の青年中央会における活動も企業経営と同様に「進化」していかなければ我々会員はもちろん、会員の所属企業にもプラス要素は少なくなっていくのではないでしょうか？

今年度は30周年を間近にひかえ、今一度過去の歴史を振り返るとともに、新しい青年中央会の歴史を作り上げていく準備の年でもあります。この1年間、会員の皆様と共に鳥取県青年中央会は「進化」をテーマに事業を行い、会員ならびに会員所属企業にとって有意義な会になれるよう努力してまいりたいとおもっております。会員の皆様はもちろんＯＢの皆様のご支援もいただきながら、青年中央会がさらにすばらしい会になれるように努力してまいります。改めまして、よろしくお願いいたします。

新年度副会長・委員長抱負

副会長　桑垣英二

この厳しい社会情勢の中、副会長として本会運営の一翼を担うということに重圧を感じながらも、会内での久方ぶりの役職に心地よい緊張感を味わっております。

副会長としてのこの1年は、任期中に実施される各種事業を成功裡に終わらせるための努力を惜しまず、直面する様々な問題に対しては「会の発展」を心の拠り所とし対処していきたいと考えております。

また、担当する委員会の運営が円滑に進むよう良きサポート役となること、会内のコミュニュケーションが目詰まりを起こさないために役員と一般会員を結ぶ太いパイプ役となること、もぜひ果たさなければならない役割であると考えております。新年度会長が掲げられた「伝心伝承」というスローガンは、卒会年度を迎え次代への継承を意識しなければならない私にとって大変重いスローガンですが、このスローガンの下、本会の発展に全力を尽くしてまいりますので、ご指導ご鞭撻をいただきますよう心よりお願い申し上げます。

経営委員会　花園直樹

第29期浜田会長の下、経営委員長を務めさせていただきます花園です。歴史ある当委員会の運営を任され、身の引き締まるおもいをいたしております。

今年度の委員会では会長が掲げられた「自立」というテーマに基づき、「我々中小企業にとっての自立とは何を意味しているのか？」ということを考えていきたいとおもいます。依然厳しい経営環境が続いている今の時代の中にあって、首をすくめて頭上の嵐が行き過ぎるのを待ってばかりいてはジワジワと体力を消耗してしまいます。同じ体力を使うのなら目の前にある厳しい現実に敢えて立ち向かい、問題解決に取り組み、最終的にそれを乗り越えていく積極的な姿勢こそが企業にとっての「自立した姿」と言えるのではないでしょうか？

少々堅苦しい抱負となってしまいましたが、委員会の皆様とは楽しく前向きな意見交換をさせていただきたいとおもっています。色々なご意見を伺わせていただきながら、一個人としての精神的な自立という点についても考えていければ幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

情報メディア委員会　岩崎俊和

「委員長しない暦10年」不肖岩崎、最初で最後の委員長をさせていただくことになりました。しかも、情報メディア委員会…！

すべての現役会員の中で、最も相応しくない超アナログ人間を委員長にご指名いただきました。絶句してばかりもいられないので、できる範囲で“今までにない”情報メディア委員会にしていきたいとおもっています。

現在のＩＴの進展は急速で、しかも多岐にわたっており、テーマを絞ることには不安を覚えます。そこで、「業種、年齢、ＩＴに関する興味や知識・スキルの違うメンバーが、それぞれに目標を立て、1年間で成果をあげる」というやり方を取ることにしました。「個人個人の進化と深化」といえば聞こえはいいですが、委員長の手抜きともとられかねません。しかし、そうした誹りをあえて受けることで自らに負荷をかけ、真っ白な灰になるまで燃え尽きたいと願っています。

副会長　伊藤玉一

第29期浜田会長の下で副会長を務めさせていただきます伊藤です。本年度のテーマ「自立」－3本の柱－の中で「地域の自立」を担当する政治行政委員会ならびに地域ビジョン委員会を担当させていただきます。

両委員会は、鳥取県西部を中心に「どのように自立し、地域間の連携をどう図るか？その中で地域間競争にどのように勝ち抜くか？」を基本コンセプトにしております。そして、政治行政委員会は平成大合併の中、地方の自立を政治・行政の面から考察します。また、地域ビジョン委員会は住んでいる地域を考え、未来に向けてより良い地域にするために地域住民の面から勉強していく場にしたいと考えております。

副会長は、会長の想いを山根・多賀両委員長に伝え、両委員長の想いを四役会に伝える役目であり、会長・両委員長と気持ちをひとつにして1年間充実した中央会活動が出来ればと考えています、両委員長ならびに会員のみなさま、1年間よろしくお願いします

政治行政委員会　山根宏典

平成15年度政治行政委員長を務めさせていただきます山根です。1年間どうぞよろしくお願いいたします。

近年、政治行政委員会では「市町村合併」をテーマに委員会を運営されてきました。今年は、合併の青写真もうっすら見えて来てきているということから、テーマを「未来の子供たちに向けて」と題し、合併後を想定した3つの問題を考察していきたいと考えております。1つは「環境」、1つは「教育」、もう1つは「観光」です。今年度、浜田会長よりいただいておりますスローガン「伝心伝承」、テーマ「自立」－3本の柱－ の一角「地方の自立」を根本から考え、我々の住む鳥取県西部地域の行政との係わり合いを出来るだけ身近にし、我々の考えを提案していきたいと考えております。

そして、自分自身の型にとらわれず、委員会のメンバーと一緒になって努力を重ねていきたいとおもっております。「一射絶命」の精神で頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

地域ビジョン委員会　多賀彰穂

普段、私たちは小さなことでも無意識のうちに夢（ビジョン）を頭の中で描き、それに向かって何らかの目標を立てています。目標に到達すると新たな夢がどんどん生まれ、それは欲望を完全に満たさない限り続いていくものだとおもいます。時として意識的に描かなければ到達できない夢もあります。大きな夢には大きな目標を持つべきであろうし、困難な夢にはより鮮明な目標を必要とするのかも知れません。漠然と時間を過ごすのでは漠然とした結果しか生まれてきません。私たちはもっと夢を持つことを楽しまなければならないのではないでしょうか？豊かなビジョンなくして豊かな到達点はありえないのです。

さて、今年度地域ビジョン委員会のテーマは「you may dream／夢ドリーム」です。単純に「楽しく夢を追いかけ、それが適えばいいな」という想いで委員会を進めていきたいとおもいます。私の11年におよぶ長い中央会活動の中で得たものは数多く、今年度スローガン「伝心伝承」の心で何かひとつでもお返しをせねばという想いで頑張りたいとおもいます。

それぞれの想い

山口英俊

ＡＳでは不慣れなこちらと違って、ボランティアの皆さんは何年も係わってきたベテランの方ばかりで、雨が断続的に降る悪天候の中、選手にスポンジやドリンクなどを手際良く渡しておられました。ご近所の方が、雨の中声援を送っておられる姿は感動的ですらありました。あらためてボランティアの皆様のご好意や関係者の熱意によってこの大会が運営されていることを実感することが出来たようにおもいます。

砂原弘明

今回、初めてトライアスロンボランティアに参加してとても大変だとおもいましたが、何もかもが初めての体験でとてもいい経験なりました。

当日の激しい雨と雷に驚きながら準備をしていき、頭の中は何をすれば良いのかパニックになりましたが、なんとか自分の役割を果たせたとおもいます。来年も新しい経験と感動を体験したいとおもいました。

平田和久

今回初めてトライアスロンを間近で見て驚いたことは、ボランティアの人達がいて大会が成り立っているということでした。また、これだけの回数に渡って続いてきたのは何故なのか考えさせられました。ただ、残念におもうのは、大会に係っている人とそうでない人達の温度差がかなりあるということです。

中央会としてこの辺りの差を縮める提案を運営団体にしていけば、さらに盛り上がるのではないかとおもうのですが・・・

牧田継夫

「トライアスロン」という競技があるのは昔から知っていましたが、今回ボランティアという形で参加させていただき、鉄人たちの自分自身と闘う姿、苦しい中でも精一杯心から楽しんでいる姿などを体感することができました。

ゴールした選手達の満足そうな顔と終わってから某先輩にご馳走になったラーメンの味は忘れません。でも、正直言って疲れました。

長田賢一

今まで何度か一般ボランティアとしては参加していましたが、この度はボランティアを運営する側にまわり、以前とは違った視点でトライアスロン皆生大会に携わることが出来ました。

ボランティアを通じて感動を共有し、「新たな出会いの場」としてさらに多くの人々にボランティア参加していただければとおもいます。

中村臣成

例年通り「五千石だんだん会」の世話役として、ボランティアに参加させていただきました。当エリアは急な坂をくだっての左折、バイクを降りての地下道通過など滑りやすい箇所ばかりで、直前までの大雨を非常に心配しました。しかし、コース下見の効果もあり、選手はもちろんのこと、ボランティアに参加して下さった全ての人にひとりの怪我もなく無事に終えることが出来ました。来年もこれを目標にぜひ頑張りたいとおもいます。

それぞれのボランティア

尾沢聡巳

米子に生まれて41年目になりますが、トライアスロン皆生大会には選手としてはもちろんのこと、ボランティアとしても一度も参加したことがありませんでした。この度、中央会入会にあたりはじめてマラソン部員として協力させていただきました。私も小さいときから体育会系で育ってきたこともあり、感動的なゴールシーンには涙が出そうになりました。いろいろありましたが、翌日のかたづけを含め、長い3日間でしたが久しぶりにいい汗（少し酒臭い）をかかせてもらいました。

木下立己

出場選手のナンバリングをしてみて出場選手が700人を超えることにびっくり。自転車競技のポイント地点でトップの選手がすごい勢いで通過。そのあと来る選手来る選手にがんばれと声を掛ける。うなずく、手を振る、ありがとうの声。行き過ぎた選手がサドルから腰を浮かせて力強くペダルを踏み込み走り去っていく姿を見ていると、自分の声援が少しは役に立ってるのかなぁと嬉しくなる。来年も参加しよう。

板垣慶太

混成団体で運営した夕日ヶ丘ＡＳ。沿道で声援を送り、選手の方がそれに応えてくれた瞬間、参加した喜びを感じました。ＡＳ撤収後、感動のゴールを見学。目標を成し遂げた選手の姿を見て、爽やかな感動を覚えました。仕上げは心地よい汗をかきながら倉庫で撤収作業。プロジェクトの運営も勉強になりましたが、それにも増して多くの方の愛を感じた1日でした。

福庭貴志

トライアスロン未経験の私に実行委員会から声かけをいただいたばかりか、４月からはボランティア部員として大会に向けて取り組みました。貢献できたことは微々たるものだったかもしれませんが、私が共に取り組んだ皆さんから得たものは大きなものとなりました。そして、トライアスロンは地元活性化のためにも、なくてはならない財産であることを再認識させられました。

鶴田文彦

私は今回、天満屋ＡＳを担当させていただき、ＡＳの立ち上げ・撤収等を行いました。私達中央会ボランティアと同様、たくさんの方々がボランティアとして参加し、精一杯選手を励まし、そして頑張っておられる姿を見て、改めてたくさんの大会関係者の方の努力によって成り立っているこの大会のすばらしさを感じました。

辻　拓哉

今回初めてボランティア部の一員として活動させていただいて、トライアスロンのこと、ボランティアのこと、中央会のことが徐々にわかってきたように感じました。また、中央会のボランティアへの取り組みはトライアスロン皆生大会には無くてはならない存在だと感じ、身の引き締まるおもいがしました。

副会長　中本高夫

西部青年中央会第29期浜田一哉会長の下、副会長を拝命いたしました中本高夫でございます。本年度会長の掲げられたスローガン「伝心伝承」、テーマ「自立」（会の自立、人としての自立、地方の自立）の下、青年中央会創立30周年にむけて大切な年になることを自覚し、また、さらなる一歩を踏み出すためにも会長を先頭にし、会員の皆様と共に青年中央会活動に努力精進していきたいとおもいます。

申し遅れましたが、担当委員会は総務委員会ならびに国際交流委員会でございます。何卒1年間ご指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。

総務委員会　福田一哉

我が委員会のスタート事業でもある7月の懇親会も無事(?)終了し、いよいよ新委員会がスタートいたしました。

私は司会に専念するだけでしたが、委員会の皆さんの力でスムーズな進行をしていただき、改めて皆さんの力に魅せられたおもいです。

このまま今の勢いとテンションを維持しながら、浜田会長のスローガンである「伝心伝承」の意味を理解し、その推進と浸透に努めていきたいとおもいます。そのために、総務委員会では3つのテーマをもっています。

①当たり前のことを当たり前にこなす。一人前の大人たれ。
②時間は努力して作る。これも個人の能力だと考える。
③大変だけど楽しくて、ためになる委員会。

さまざまな活動を通じて、全員が団結し、思い出になる委員会にしていただきたいと考えます。

国際交流委員会　松浦光善

西部青年中央会第29期浜田会長の下、国際交流委員長を務めさせていただく松浦光善です。大役を任命いただき、身の引き締まるおもいでございます。

今年度国際交流委員会では、浜田会長のテーマ「自立」－3本の柱－の中より、「人としての自立（社会人、そして国際人としての自立）」を、テーマにいただいております。このテーマを基本に私らしいカラーを出したユーモアたっぷりの、そして、必ず実績の残る委員会活動を目指したいとおもっております。

昨年の国際交流委員会の継続事業である中国からの貿易事業を足掛かりに、海外ビジネスの貿易投資について掘り下げていきたいとおもいます。また、諸外国との習慣やモラルの違いを学びながら、委員会メンバー全員で楽しく自己研鑽できればと考えております。

何卒、1年間よろしくお願いいたします。

副会長　野嶋　功

本年度副会長の職を拝命いたしました野嶋です。昭和59年に入会し、平成10年に一度副会長をさせていただき、もうこの職に就くことはないと勝手におもっていたのですが、在籍最後の年になって再び重職に就くことになり身の締まるおもいで一杯です。

おもうにグラグラと在籍期間ばかり長く、気がつけば既に19年目。様々なことを学んだ青年中央会に恩返しをする最後の機会を与えていただいた浜田会長を補佐し、また、中央会の若きエース・後藤委員長の活動をサポートすることを最優先課題として参りたいとおもっています。

1年間、皆さんよろしくお願いいたします。

広報委員会　後藤公平

今年度広報委員長を拝命いたしました後藤公平です。よろしくお願いします。

中央会における広報活動は、「事業内容や活動状況を一般の人に広く知らせ、理解を求めること」という「広報」の持ち合わせる広義の解釈に照らせばあるひとつの側面でしかなく、他にもいくつかのアプローチの仕方があると私は考えています。

また、誤解を恐れずに言わせてもらえば、ここ数年の広報委員会の活動はともすると会報の編集・発行というルーティンを与えてもらっているためか、達成されるべきノルマと化し、きわめて内向きな「狭報活動」になっているようにおもえてなりません。

そこで、今年度広報委員会の年間テーマを「広報を問う」とし、絶えず外部発信ということを念頭に置き、中央会における広報活動のあり方を多面的に模索していきたいとおもいます。

野嶋副会長をはじめ委員会メンバーと共にスクラムを組んで頑張っていこうとおもいます。楽しみにしてください。

副会長　中島太郎

いよいよ浜田会長の下、新しい年度がスタートしました。本年度のテーマ「自立」について皆さんはどうお考えでしょうか？私は3つの柱の中で特に注目していますのが、「地方の自立」です。何故かと言いますと、一番難しいテーマだとおもうからです。

我が会からどのようにして地方の自立に対しての確固たる意見や提言ができるのか、そのためには我々の住む地域がどのような方向に進むべきかを我々自身がはっきりと認識しなければならないからです。他の青年経済団体とはその生い立ちが違う我が西部青年中央会だからこそ、枠にとらわれない斬新な切り口と発想をもって「会の自立」、「人としての自立」を包括した形で「地方の自立」を考えられるのではないかとおもっております。

つきましては、来年7月に予定されている30周年記念事業を成功させるためぜひとも現役会員のみならずＯＢ会員の諸先輩方にもご協力を心よりお願い申し上げます。

30周年記念事業委員会　水　康徳

“清新撥剌たる意気に燃える若々しい力を結集し個性あふれる企業者の真な経営努力をすることが我々に課せられた使命である。”という結成宣言より動き出した当中央会も来年で30年を迎えます。この大きな節目を記念する事業を企画・実施する委員会を担当することは大変光栄なことであり、また、その責任は非常に重いものだと感じております。

当委員会では30年という歴史の中で、その長い年月の間に熟成されてきた当会のスピリッツ、当会のあるべき姿や会員はどう行動すべきか、などを会員の皆様に再認識していただけるような企画にしたいとおもっております。そのなかで浜田会長が掲げられたスローガン「伝心伝承」、テーマ「自立」をメインテーマに据え、記念事業を企画・実施していこうと考えております。

会員の皆さんにとって意義ある事業になるよう努力してまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。また、OB会員の皆様にもこの周年事業の企画に対しご賛同ならびにご支援をいただければ幸いです。

1年間、よろしくお願いいたします。

平成15年度県総会開催される

ー待ちに待った市位県会長就任ー

平成15年7月23日（水）、セントパレス倉吉にて会員130名が出席して県総会が開催された。

【通常総会】　まず、大津昌克県会長が中央会から皆生トライアスロンへ出場した3選手全てが完走した報告があり、選手の感動を代弁した。そして、昨年度のテーマ「危機管理」～基本に帰れ～を振り返りながら『こんな時代だから自己防衛のために危機管理意識を高める必要がある。しかし、現実離れした危機管理ではなく、まずは基本に帰り、自分の足元を見つめ直すことが大切である。』と力説した。また『中央会は若手育成の場であり、地域に貢献することが中央会の使命である。』と締め括った。

議案承認では、平成14年度事業報告が行われ、収支決算書も無事に承認された。ちなみに、次期繰越金は390,851円であった。続く平成15年度事業計画では親睦・交流事業、中小企業団体全国大会参加事業等の説明が行われ、収支予算案と共に可決承認された。最後に、任期満了に伴う新役員の承認が満場一致で行われた。西部地区からは県会長をはじめ6名が新役員となり、市位新県会長の挨拶で基本方針を伝えた。

【記念講演】　「地域の自立と鳥取県教育の課題　～人のかたち、企業とまちのかたち～」をテーマに鳥取県教育委員会委員長高多彬臣氏を講師にお迎えした。教育・人・企業の視点から近代日本の歩みを紹介され、現代社会の混迷が何故起きたのか、原因は何処にあったのかを考えさせられることとなった。また、地域が自立する必要性を指摘して『地域の自立のためには個人の独立が必要。』と人の重要性へと続けられた。そして、企業が発展していくためにはコスト重視の大量生産ではなく、真に価値のある物作りの出来る人材が求められ、学校教育では住民が必要だとおもう教育のありかたについて意見を出していき、責任と使命感を持った人を育てていくことが必要だと結ばれた。

（広報：平田和久）

西部青年中央会　第29回通常総会

門脇丸を締めくくる第29回通常総会が、7月15日(火)18時30分よりホテルサンルート米子で開催された。

冒頭、門脇会長より会員への1年分の感謝の言葉があった。そして、『直前会長として浜田丸を支え、恥ずかしくない中央会を築いていく。』と宣言された。

続いて、夏野副会長が議長に選出され、議案である「平成14年度事業報告および収支決算報告」、「平成15年度事業計画および収支予算案」についての審議がなされ、満場一致で承認された。

卒会式では12名の卒会生のうち出席された11名が卒会証書を受け取られた。卒会生を代表して小林会員が『自分自身が燃えること。内輪だけで楽しむのではなく、外に向かって発信しろ。』と我々現役会員を叱咤激励された。また、特別表彰として土井第26期会長と岩田第27期会長に感謝状が贈られた。お二方とも感慨深げに中央会活動を振り返られ『中央会は自分を育ててくれた素晴らしい会です。』、『卒会してからもつきあいは一生続きます。遊びに来てください。』という惜別の言葉で締めくくられ、総会は厳粛な雰囲気のうちに終了した。

通常総会終了後、来賓・ＯＢ会員の方々をお迎えし、懇親会が開催された。はじめに、浜田第29期会長が今年度のスローガンである「伝心伝承」と来期の30周年に向けて「自立」というテーマを掲げ、今年度に対する想いを述べられた。

次に、来賓の野坂米子市長より皆生トライアスロンへの取り組みや韓国との経済交流について感謝の言葉をいただいた。

引き続き、毎年恒例のトライアスロン壮行会が行われた。出場者は現役から宮崎会員、ＯＢからは松岡ＯＢの2名と例年より寂しい人数となったが、選手の決意表明や中島応援団長の鬼気迫る辛口トークにより場内は大爆笑。前田副団長のエールで一気に気運が盛り上がった。

最後に、卒会生12名の幼少の頃、青春時代、そして現在の3枚ずつの写真が女性コーラス隊をバックに上映され、名残を惜しみながらフィナーレへと向かった。今年の式典は野坂市長が女性コーラス隊に混ざって踊るハプニングもあり、とても楽しい式典であった。

（広報：濱　徳正）

平成14年度表彰委員会は以下の通り
最優秀委員会　国際交流委員会
優秀委員会　きずな委員会

新入会員紹介

H15年7月新入会員として板垣慶太氏、中村臣成氏が承認されました。

〈コメント〉
このたび7月より入会させていただくことになりました板垣慶太です。米子信用金庫に勤務しております。青年中央会の事業を通じ、数多くの人との出会いや感動を大切にして行きたいとおもいます。これから体験することは全て新たな発見であり、積極的に学ぶ姿勢をもって自己研鑽に努めたいとおもいます。先輩の皆様方には今後のご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

〈コメント〉
このたび7月より入会させていただくことになりました江尾砕石工業有限会社の中村臣成と申します。父が自分の全てを注いだ中央会に入会させていただいたことは喜びであると同時にプレッシャーも感じております。現在の自分に何ができるかわかりませんが、背伸びすることなく、ありのままの姿で活動できればとおもいますので、今後15年という長い期間よろしくお願いします。

※詳しくは新年度会員名簿33ページをごらん下さい。

第23回　全日本トライアスロン皆生大会

中央会トライアングル各部長の感想（乾燥？？）

団体ボランティア部　中本高夫

第23回トライアスロン皆生大会が7月20日（日）、雷雨の中開催されました。本年、岩田実行委員長の掲げられた「ボランティア、原点への回帰」をスローガンにし、ボランティア部とマラソン部、ならびに中央会団体ボランティア部の3本柱が連携をとりながら、「中央会トライアングル」の形成を目指してきました。

団体ボランティア部は「会員がお互いに充実し、達成感を味わえるよう協力し合うことが重要」であると考え、夕日ヶ丘ＡＳという仕事場で選手のため、また、自らのために汗を流すことを目標にいたしました。そして、マラソン部とボランティア部の要請があればいつでも臨機応変にフットワーク良く動く体制が出来てこそ、岩田実行委員長の掲げたられた「中央会トライアングル」が完成するものと確信いたしました。

当日、夕日ヶ丘ＡＳは、大海通産㈱・美保通信所・境二中の生徒さん、そして、青年中央会ＯＢの皆様と団体ボランティア部の総勢140名体制で臨み、活気・熱気の中、参加したボランティア皆が輝き、ヒーローになれたことが最大の財産となりましたことをご報告申し上げます。

最後に、青年中央会会員の御家族・従業員の皆様に多大なるご支援とご協力を賜りましたことを御礼申し上げます。ありがとうございました。

T.S.C

マラソン部　増井幸一

体力の限界に挑戦し、その限界を超えた体でゴールする。言葉で表すことの出来ない感動があるのは選手だけではありません。当日、20時間にわたりマラソンコースを東へ西へ大声を出しながらいったい何往復したでしょうか？準備では草刈り・看板立て・備品整理等に何回コースを回ったでしょうか？部員皆、体力の限界を通り越し、大会を成功させることに集中し、一生懸命動き回る。選手がゴールしても私たちのゴールはまだ先です。「皆で一緒にゴールしたい！」そんな想いが最後の力を発揮させます。まさに、マラソン部でしか味わうことのできない達成感と感動は、この積み重ねにあるとおもいます。

マラソン部の皆さん、おつかれさまでした。若輩者のマラソン部長でしたが、皆さんに大きく支えられ、お金で買うことのできない、言葉で表すことのできない大切なものをいただきました。

ボランティア部ならびに中央会団体ボランティア部の方々、おつかれさまでした。ポスター貼り・備品洗いの応援に加えて撤収作業では多くの方に率先して手伝っていただき大変感謝しております。おかげさまで短時間で片付けも終了し、部員そろって中央会の終礼に参加できたことを嬉しくおもいます。まさに中央会トライアングルがそこにあったとおもいます。ありがとうございました。

ボランティア部　夏野慎介

長い準備期間を経て迎えた大会当日は、激しい雷雨で始まりましたね。皆さん、おつかれさまでした。そしてありがとうございました。私がボランティア部長を務めることができたのもボランティア部員、そして会員の皆様の協力があってのことだとおもっています。

テレビ取材・大会終了の挨拶など世間全体に対しては平気でしたが、中央会のメンバーに対して何を言っていいのか言葉が見つかりませんでした。それだけ感謝しております。大会の翌朝、『これで本当に卒会か？』とつくづく感じ入りました。現役最後の年に副会長、そしてボランティア部長をさせていただいたことに対してあらためて感謝いたします。

来年からはＯＢとして参加させていただきます。当日のテレビ取材で『毎年、ボランティアをされている人も多いそうですね。』と聞かれて、『彼らはボランティア中毒です。』と答えました。そうです、私は中央会とトライアスロンの中毒患者です。これからもよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

中央会代表選手の感想（完走！！）

宮崎大介

早いもので、中央会に入会して3度目のトライアスロン皆生大会への出場となりました。今回は親子出場ということもあり、普段全くタイムとか順位とかを意識していなかった私も、皆様からの例年以上の声援で、意識せざるを得ない状況でした。

結果から申しますと私は147位、父はスイムで奏権、とあまりにも対照的な結果になってしまいました。共に朝4時に起き、大山に自転車で登り、昼休憩には同じジムで水泳をし、夜は近所をランニング。同じことを同じだけ、もしくはそれ以上の練習をしてきた父にとっては悔やんでも悔やみきれない結果でしょうし、私自身も自分の結果が良かったにもかかわらず素直に喜ぶことが出来ません。

父はおそらくまた来年もチャレンジします。もちろん出場出来るかどうかはわかりませんが、もし出場が叶えば無事親子で完走することを夢見、その時改めて喜び一杯でペンをとりたいとおもいます。

松岡正高ＯＢ

今回も皆様方の応援で完走出来ましたことをお礼申し上げます。

総会では宮崎君とふたりしか壇上に上がっていなかったので、『振り返ってみれば皆生大会ももう連続9年も出場しているのだな…』と年月をひしひしと感じた次第です。

ここ3～4年は体調不調、仕事などの諸条件が重なりおもうように練習時間が取れなかった上に、大会がそこまで近づいているにもかかわらず緊張感が高まらず淡々としておりました。

そこで、心機一転、原点に戻って『一日楽しもう！』とおもいました。

大会当日朝、雷雨で目がさめ、スイムがあるかどうか心配で会場へ行き、30分遅れでレースが始まると聞き安心しました。

スイム：「雷・日野川の濁流・くらげ」と諸悪の条件のなか泳ぎぬき、昨年と同じタイムで上がることが出来、次なるバイクへ進みました。

バイク：小雨で涼しかったことが幸いし、体力にゆとりがあり、無難に終えることができました。

ラ　ン：『10Kmまでは歩かずがんばろう！』とおもっていました。走り始めたところなぜか体が軽く『行ける所まで走ろう！日指すは折り返し地点。』と方針転換しました。

夕Ｈヶ丘ＡＳの行き帰りの応援、折返しの営農センターＡＳでの萬田君のマッサージうれしかったです。（中海ＴＶでの他選手のゴールを見ながらの休憩は情けないものです。）後半も足元軽く、ゴールできました。

ゴール：応援の皆様の予想より早くゴールしてしまいさびしかったです。

スタッフ・ボランティアで参加していただいた会員・OBの皆様、長い時間ご苦労様でした。